

指導主事だより

なんだかうれしい

教育委員会

相談時間等 月・水・金曜日

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分
電話 0267-56-3131 (呼)
 - 立科中学校/午後2時～午後5時
電話 0267-56-1076 (呼)
 - 立科町児童館/
午前11時50分～午後1時40分
電話 0267-56-0303 (呼)
- (担当 指導主事 中島 一彦)

子ども時代という天地



女の子が頭上にある枝をじっと見つめています。しばらくすると、ふっと意を決するような顔つきになって、その頭上の枝に飛びついたのでした。飛びつくと同時に、両手を固定し、右足を幹にあて、歩くような仕草で左、右と歩を進め、すると木登りを始める女の子。まるで踊り出すかのようなタイミングで、あっという間の見事さです。

枝の真下になった自分の体を一気に、腕の力で枝の上に押し上げていきました。

「ほーっ、すごい！」とつぶやいてしまいました。

腕の力から、今度は右足を、その枝に絡ませて、枝の上にせり上がるように上体を持ち上げていきます。

その瞬間に、「えへへ・・・」とかわいい声で笑みを浮かべ満足そうに、木の下の様子を見渡します。

複雑に絡み合う枝から見える光景を眺めながら、太い幹を左から右へと移動し、安全な場に足を置き、上り始めた地点と反対の側に軽やかに降り立ちました。

その様子を眺めていた何人かの子どもたちが次々とその女の子の後に続きます。そんな友だちの取り組みを見ながら、「あっ、そこに足をかけて、そう」と最初の女の子が声をかけてくれます。

その声に応じて足や手を木にかけていく子どもたち。様々な登り方が生まれていました。

手ごたえを楽しみ、面白さを分かち合っていました。分からないから、できないからわくわくしちゃう・・・そんな声が聞こえてきそうな雰囲気です。

早春の野に遊ぶ子どもたちの躍動が心地よくて、夢中に見入ってしまいました。

目の前の何かを乗り越えよう、やらされる出来事ではなく、自ら動き出していく子どもたち。

そして野外にある生活の場。

どんな時代であろうと、変わらない子どもたちの天地があるような気がしてなりません。

遊びから、活動から学びが必ず生み出されている。主体的な学ぶ身体が育てられている。

今、学力だ、生きる力だ・・・というゴールを声高に叫ぶ教師や大人たち。ゴールや結果だけに目を向けるのではなく、子どもには、子ども時代を、子どもとして存分に生きる生活の場、野外の天地があるということ問い直すことが教師や大人に問われていることなのかもしれません。